



[シラバス参照](#)

タイトル「2020年度シラバス」、フォルダ「行政政策学類」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	スタートアップセミナー		
担当教員	村上 雄一		
対象学年	1年,2年,3年,4年	クラス	行:J
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位区分	必修
授業形態	演習	単位数	2
備考			
特修プログラム		ナンバリング	g1110010
教育目標との関係 (DPポイント配分)	基盤教育 基盤教育	最新の専門知識及び技術	50 %
		本質を見極めるための教養と学際性	20 %
		協働的な問題探究	30 %
		社会の改善につなげる創造性	0 %
		市民としての主体的態度	0 %
授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実験 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> フィールドワーク <input type="checkbox"/> ICT機器の活用		
授業概要とねらい	<p>テーマ:多文化主義の過去・現在・未来 - オーストラリアと日本、そして、世界</p> <p>みなさんは「多文化主義」(マルチカルチュラリズム、英:multiculturalism)という言葉を知っていますか。多文化主義とは、社会は異なる文化を持つグループが「対等な立場で」構成すべき(または許容・包容されるべき)だという考え方、または、政策のことを指します。カナダ、オーストラリア、ヨーロッパなどで民族文化の多様性を積極的に奨励し保とうとする政策に反映され、1971年にカナダで、初めて公的な政策として採用され始めました。</p> <p>多文化主義政策が成功している国の一つにオーストラリアが良く挙げられます。「オーストラリア多文化主義」は、1973年当時のウィットラム連邦労働党政権のオル・グラスビー移民大臣により示唆され、その後フレイザー連邦自由党・地方党連合政権が1978年のガルバリー報告書の勧告に基づいて本格的に導入したものです。そして2008年は本格的導入後30年を画する年となります。多文化主義は、かつてアジア・南太平洋地域のヨーロッパ国家であり、白豪主義国家として成長してきたオーストラリアが、その過去にこだわることなく、第2次世界大戦後の人口不足解消と大陸防衛強化のため導入した大量移民政策による人口構成の多様化と、戦後の国際関係の変化に適応するために採用した「国民統合政策」ともいえます。</p> <p>この演習では「調査」⇒「発表」⇒「討論」⇒「レポート作成」という、大学の演習に必要な基礎的技術の習得を目指すため、「オーストラリア」に関わるさまざまな題材を扱います。前期は主にオーストラリアに関する基礎知識の理解を進めたいと思います。</p>		
単位認定基準	この演習では「調査」⇒「発表」⇒「討論」⇒「レポート作成」という、大学の演習に必要な基礎的技術の習得を目指す。		
授業計画	<p>主なトピック(前期・予定)</p> <p>1 Introduction & レジューメ&レポート作成術概説 2 レポート作成実習 3 図書館ガイダンス 4 第1章 歴史 5 第2章 文化 6 第3章 アボリジニ 7 第4章 社会(1) 8 第4章 社会(2) 9 第5章 メディア 9 第6章 法律(1) 10 第6章 法律(2) 11 第7章 政治(1) 12 第7章 政治(2) 13 第8章 外交・安全保障 14 第9章 経済・貿易</p>		

	15 第10章 日豪関係
教材・教科書	竹田いさみ・森健(編)『オーストラリア入門 第2版』(東京大学出版、2007)
参考図書	青木 麻衣子 『オーストラリアの言語教育政策 多文化主義における「多様性」と「統一性」の揺らぎと共存』 東信堂 2009年 ケイト・ダリアン=スミス(編集), 有満 保江(編集) 『ダイヤモンド・ドッグ 「多文化を映す」現代オーストラリア短編小説集』 現代企画室 2008年 飯笹 佐代子 『シティズンシップと多文化国家 オーストラリアから読み解く』 日本経済評論社 2007年 塩原 良和 『ネオリベラリズムの時代の多文化主義 オーストラリアン・マルチカルチュラルリズムの変容』 三元社 2005年 アル グラスビー, 藤森 梨子(翻訳) 『寛容のレシビ オーストラリア風多文化主義を召し上げろ』 NTT出版 2002年 小山 修三(編集), 窪田 幸子(編集) 『多文化国家の先住民 オーストラリア・アボリジニの現在』 世界思想社 2002年 久村 研『オーストラリアとニュージーランド—多文化国家の素顔とその背景』 三修社 2001年
参考URL	
授業以外の学習	指定教科書は普段から熟読すること。発表予定者は、レジュメやパワーポイントを用いるなどして、報告を聞くものがわかりやすいように準備をすること。
成績評価の方法	レポート(1回) 40% 演習発表 40% 授業への参加及び貢献 20% 合計100%
成績評価の基準	S:単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた(90~100点) A:単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた(80~89点) B:単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた(70~79点) C:単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた(60~69点) F:単位認定基準の学修成果をあげられなかった(~59点)
オフィスアワー	水曜日 3時限目
授業改善・工夫	アクティブラーニング
留意点・注意事項	
教員の実務経験の有無	

